

演習課題 6-4…VLOOKUP 関数と構造化参照

- シート「演習4」の「A3からH9」を「算定表」という名前のテーブルに変換します。
シート「演習4-1」の「A1からB4」を「マスター」という名前のテーブルに変換します。
- 「マスター」テーブルの値を参照して、「算定表」テーブルの「C4からC9」に仕入原価を表示します。構造化参照式が設定されます。
- 「マスター」テーブルに「B列」と「C列」を挿入し、下記の内容に変更します。

	A	B	C	D
1	品番	品名	値入率	仕入原価
2	2001	製品A	20%	11,600
3	2002	製品B	18%	22,500
4	2003	製品C	20%	43,200

- 「マスター」テーブルの仕入原価の列が右にずれたことにより、参照範囲が正しく表示されません。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	売価算定表							
2								
3	品番	品名	仕入原価	値入率	販売数量	売価	売上高	粗利益
4	2001		製品A		700			
5	2002		製品B		250			
6	2003		製品C		280			
7	2002		製品B		600			
8	2003		製品C		1,300			
9	2001		製品A		980			

- 「C4からC9」の構造化参照式を変更します。VLOOKUP 関数の引数「列番号」で指定していた「2」を、「COLUMN(マスター[仕入原価])」と修正します。

```
=VLOOKUP([@品番], マスター, COLUMN(マスター[仕入原価]), FALSE)
```

	D	E	F	G	H	I
				COLUMN([参照])		
				品番		
				品名		
				値入率		
				仕入原価		
				#すべて		
				#データ		
				#見出し		
				#集計		
				@ - この行		

Point

▶テーブル

- ◎テーブルに変換
[挿入] タブ-[テーブル] グループ-[テーブル] で行います。
- ◎テーブル名の設定
[テーブルツール] の [デザイン] タブ-[プロパティ] グループ-[テーブル名] で行います。

Point

▶COLUMN 関数

引数「参照」で指定した列番号を返します。

- テーブル「マスター」の「仕入原価」の列番号を COLUMN 関数で取得することで、参照範囲内での列位置が変更されても数式を修正する必要がなくなります。
- フィールド名を囲む [] は半角です。

HINT- ⑤

数式バーに「=テーブル名[]」と入力すると指定子の候補が一覧表示されます。フィールド名を列指定子といいます。下方に並ぶのは特殊項目指定子といい、テーブルを構成する特定のエリアの指定に使います。

【6】 「C4」の式を「品名」と「値入率」にコピーします。

【7】 「B4」と「D4」のフィールド名を変更します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	売価算定表							
2								
3	品番	品名	仕入原価	値入率	販売数量	売価	売上高	粗利益高
4	2001	製品A	11,600	20%	700			
5	2002	製品B	22,500	18%	250			
6	2003	製品C	43,200	20%	280			
7	2002	製品B	22,500	18%	600			
8	2003	製品C	43,200	20%	1,300			
9	2001	製品A	11,600	20%	980			

【8】 「マスター」テーブルの5行目に下記のデータを追加します。

	A	B	C	D
1	品番	品名	値入率	仕入原価
2	2001	製品A	20%	11,600
3	2002	製品B	18%	22,500
4	2003	製品C	20%	43,200
5	2004	製品D	25%	18,600

【9】 「算定表」テーブルの「A10」に「2004」、「E10」に「50」と入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	売価算定表							
2								
3	品番	品名	仕入原価	値入率	販売数量	売価	売上高	粗利益高
4	2001	製品A	11,600	20%	700			
5	2002	製品B	22,500	18%	250			
6	2003	製品C	43,200	20%	280			
7	2002	製品B	22,500	18%	600			
8	2003	製品C	43,200	20%	1,300			
9	2001	製品A	11,600	20%	980			
10	2004	製品D	18,600	25%	50			

【10】 必要な計算式を入力して、表を完成します。

完成例

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	売価算定表							
2								
3	品番	品名	仕入原価	値入率	販売数量	売価	売上高	粗利益高
4	2001	製品A	11,600	20%	700	14,500	10,150,000	2,030,000
5	2002	製品B	22,500	18%	250	27,440	6,860,000	1,235,000
6	2003	製品C	43,200	20%	280	54,000	15,120,000	3,024,000
7	2002	製品B	22,500	18%	600	27,440	16,464,000	2,964,000
8	2003	製品C	43,200	20%	1,300	54,000	70,200,000	14,040,000
9	2001	製品A	11,600	20%	980	14,500	14,210,000	2,842,000
10	2004	製品D	18,600	25%	50	24,800	1,240,000	310,000

Point

同じ列の式が自動的に変化します。

Point

テーブルが自動的に拡張します。

Point

テーブルが自動的に拡張します。

Point

- 売価
仕入原価 / (1 - 値入率)
ここでは1の位で四捨五入しています。
商品にいくらの利幅をのせて売価を決めるかが値入高です。売価に対する値入高の割合が値入率です。仕入原価が50円で売価が100円の商品の値入率は50%です。
- 粗利益高
(売価 - 仕入原価) * 販売数量
売上高に対する売上総利益 (= 粗利益) の割合が粗利益率です。商品800円の原価 (仕入高) が500円なら、一個あたりの粗利は300円です。